

# 大学冬の時代に向けての 各大学の取り組みを読んで

広報委員 三井正信

大学冬の時代を迎えるにあたり他の大学がいかなる取り組みをなしているかを知るため、関西と関東それぞれ二校ずつ、それから地元一校、計五校、私立大学の魅力ある大学づくりの現状を取り上げたが、そこからは大いに学ぶことがあり、今後は、広大もアイデンティティを確立し、魅力ある大学づくりを積極的に行ってゆかねばならぬであろう。

## 各大学選定の経緯

受験期の若者の数の大きな減少が進むにつれてもうすぐ「大学冬の時代」を迎えるということ、近年、特に耳にするようになった。そこで、広大における今後の取り組みの参考にするため私立大学の自由な立場からなされている五校の取り組みを紹介した。以下ではまず簡単に何故この五校を選んだかについて簡単にその経緯を示してみよう。

広報委員会で小池教授が出された今後の大学冬の時代に向けての広大の取り組みについての特集を組んではどうかという意見が没になりそうだったので、筆者が「それでは将来広大の参考

にするという目的で、他大学、特に早くからこの問題に対処してきている私立大学の取り組みを集めたらよいのではないか」との助け船を出したところ、筆者が提案した方向にコンセプトを変えこのテーマが特集として決定されるとともに、筆者もこの特集の担当委員となることとなった。このような発言を委員会でしたとき、筆者の頭に

具体的に浮かんだのは関西大学や立命館大学といった私立大学のことであつた。筆者が大学院の学生であつたとき、同じ専攻の先輩がたまたま関西大学や立命館大学に教員として就職していたのだが、彼らから、早くから将来を見越して行われてきた私学のサバイバル作戦ないしは魅力ある大学づくりの取り組みについてなんども聞かされており、その並々ならぬ努力に對し思わず感心したことがあつた。また、研究会などでたまに訪れると、これらの大学のキャンパスは活気にあふれているように見えたし、学生も学校の内外において様々な活発に活動しているようで、一定魅力を感じたものである。以上が特集で取り上げたうちの二大学の選定理由であり、これについてはお分かり

いただけたと思う。

さて、次に他の大学の選定理由に移ろう。近年各私立大学は魅力ある大学づくりには大なる努力をこらしてきているが、このような私学の復権ないしは地位向上に触れる場合、そのユニークな取り組みをいち早く開始し注目を浴びたのが亜細亜大学である。また早稲田大学は私学の雄として名をはせているが、果たしてかかる私学の雄がいかなる取り組みを見せているかは大いにわれわれの気を引くところである。しかも、先に関西の二校を取り上げたので、対比の意味で東京の二校を取り上げればバランス的にも丁度よいであろう。そして残る一校は地元からどうかということ、広島の私学の雄たる広島修道大学を取り上げることにした。

## 魅力ある大学づくりという共通項

以上五大学のそれぞれの取り組みを讀んでみて、それぞれの個性ある取り組みにはやはり感心せざるをえない。これらの大学を選定したことは決して期待はずれに終わらなかつた。各大学とも自校に課せられた課題を真摯に受けとめ、魅力ある大学づくりに取り組んでいるということがひしひしと感じられる。大学というのは、学生にとつては勉学だけではなくて交友やいろいろな活動をも繰り広げながら青春の四年間を過ごすいわば祝祭の場である。

「冬の時代」がきても十分に学生を引きつけるであろうこのような青春の場にふさわしい大学づくりが目指されているといつてよい。しかも、学生におもねることなくあくまでも学生が自主的・自律的に自由なふるまえる場を提供し、彼らの成長をサポートしようとする姿勢が看取される。多様化したニーズのなか、これらの大学は選択指針を定めアイデンティティづくりを進めているのであり、これが重要な視点であると思われる。

## 広島大学に対する教訓

わが広島大学はこれら私学の取り組みから今後の糧として大いに学ぶところを有するであろう。学生におもねることなしに、学生の個性やニーズを受けとめ、魅力ある大学づくりにつとめねばならないし、また広大の大学としてのアイデンティティを確立する必要がある。冬の時代を迎えるにあたり、国立大学であるからといって受け身の姿勢を示したり親方日の丸意識で対処することはやはり許されないのであろう。広大も大学の一つとして自己のカラーを鮮明にし積極的に学生を引きつける「広大だけ」という特色を打ち出して行かねばならない。そして今後、西条キャンパスを青春の祝祭の場にふさわしいものにしてゆく努力もまた必要であると言つてよいであろう。